

(5) 高齢者の日常生活

ア インターネットを活用する高齢者が増加

過去1年間にインターネットを利用したことがあるかについて、利用者の年齢階級別に5年前と比較すると、70～79歳が14.3ポイント増と最も大きく、次いで60～69歳が12.2ポイント増などとなっており、インターネットを利用する高齢者が増加傾向にある（図1-2-6-12）。

また、インターネットを利用したことがあると回答した65歳以上の高齢者の使用頻度についてみると、半数近くの45.2%が「毎日少なくとも1回」は利用していると回答している（図1-2-6-13）。

イ 高齢者のネットショッピングでは、他の世代に比べて、医薬品・健康食品の支出割合が高い

ネットショッピングで購入した品目・サービス別の支出割合について、世帯構成別にみると、「医薬品・健康食品」では高齢者世帯6.9%と、世帯主が65歳未満の世帯3.8%に比べて、ネットショッピングで購入する金額に占める割合が高い（図1-2-6-14）。

ウ 人との交流が少ない人や頼れる人がいない男性が多い

現在住んでいる地域での付き合いの程度について、60歳以上の高齢者をみると『付き合いがない』（「あまり付き合いがない」と「全く付き合いがない」の計）とする人は、女性19.8%に対して男性25.3%となっている（図1-2-6-15）。

65歳以上の一人暮らし高齢者が、病気などの時に看病や世話を頼みたいと考える相手は、子供がいる人は男女ともそれぞれ「子」が男性41.0%と女性58.2%と最も多い。子供がいない

図1-2-6-13 インターネットの使用頻度（65歳以上のインターネット利用者）

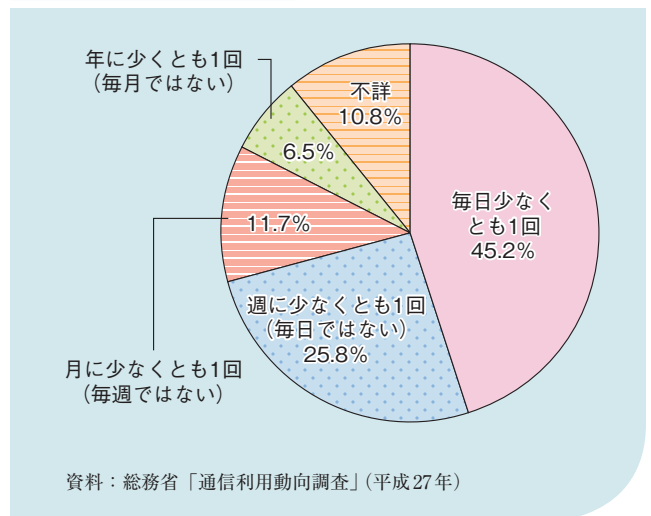
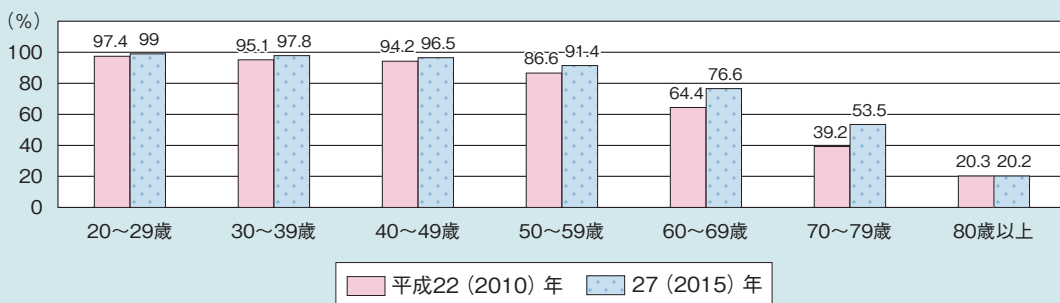


図1-2-6-12 利用者の年齢階級別インターネット利用率



資料：総務省「通信利用動向調査」  
（注）無回答を除く

女性は「兄弟姉妹・親戚」(35.4%)が最も多く、次いで「あてはまる人はいない」(21.5%)となっている。一方、子供がいない男性は「あてはまる人はいない」(35.0%)が最も多く、次いで「そのことでは頼りたいと思わない」(22.6%)となっている(図1-2-6-16)。

## エ 一人暮らしの高齢者の4割超が孤立死(孤独死)を身近な問題と感じている

孤独死(誰にも看取られることなく亡くなったあとに発見される死)を身近な問題だと感じる(「とても感じる」と「まあ感じる」の合計)人の割合は、60歳以上の高齢者全体では17.3%

図1-2-6-14 ネットショッピングで購入した品目・サービス別支給割合

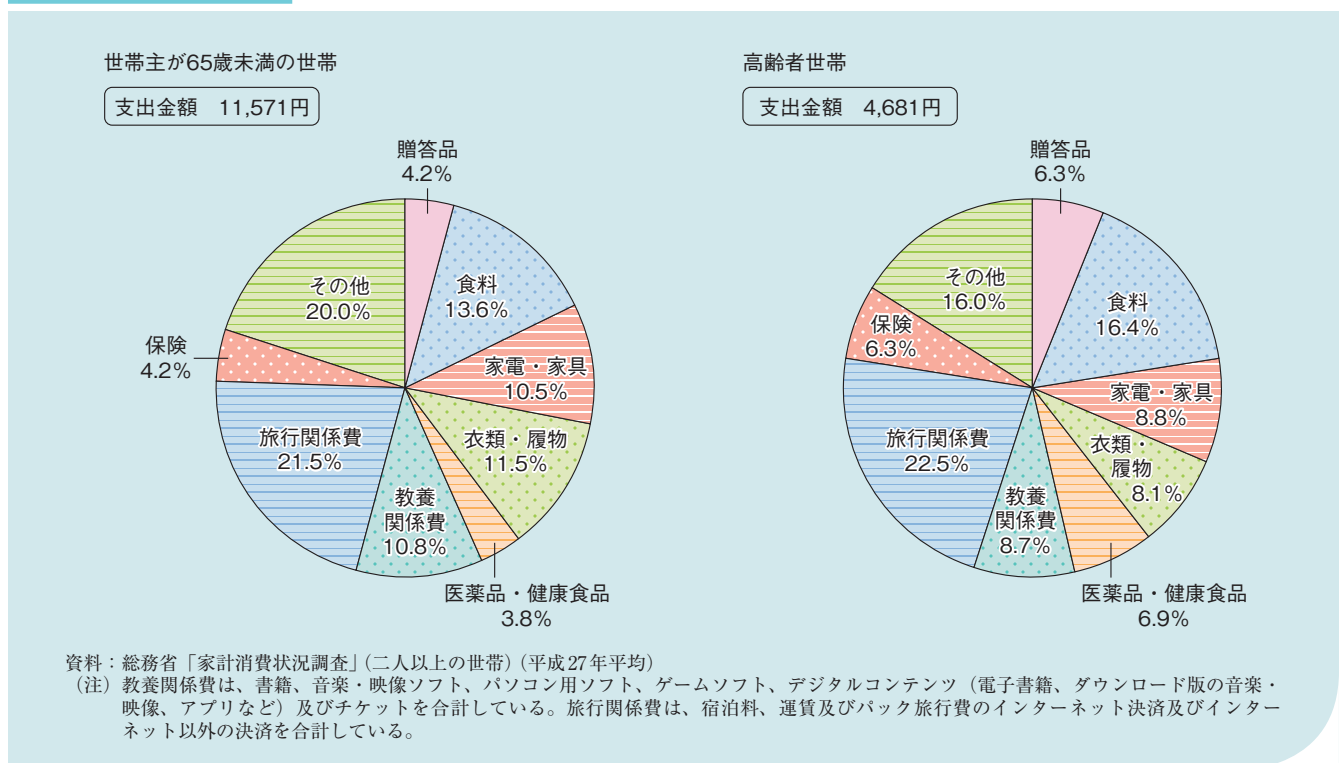


図1-2-6-15 地域での付き合いの程度

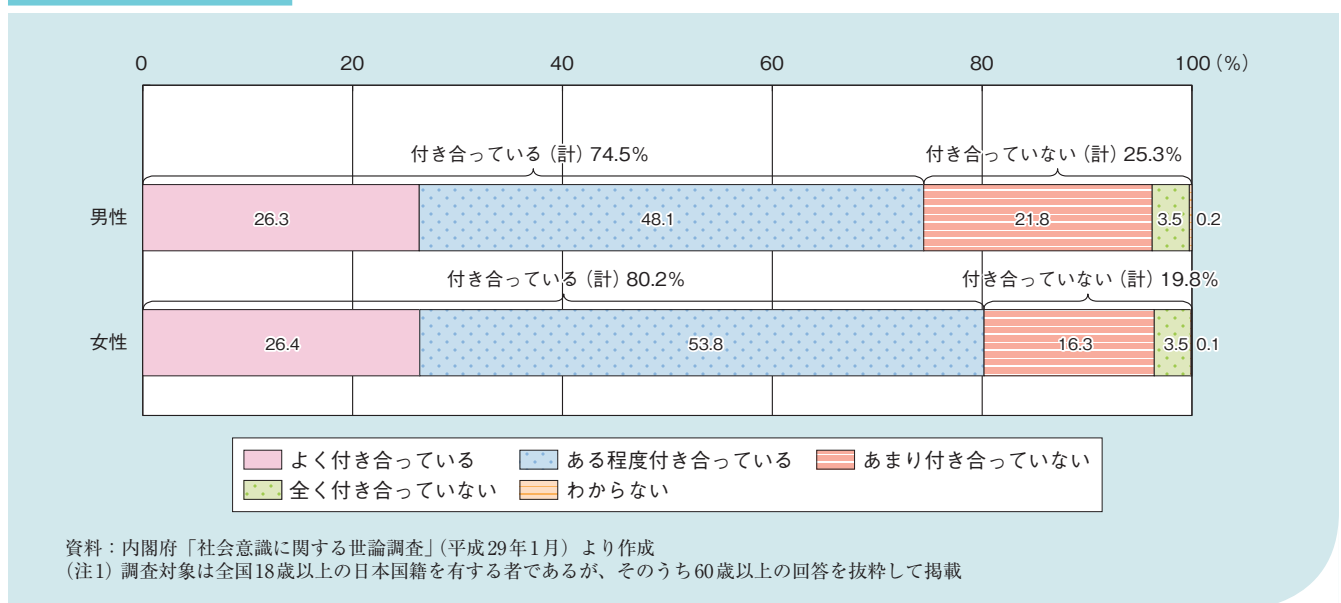
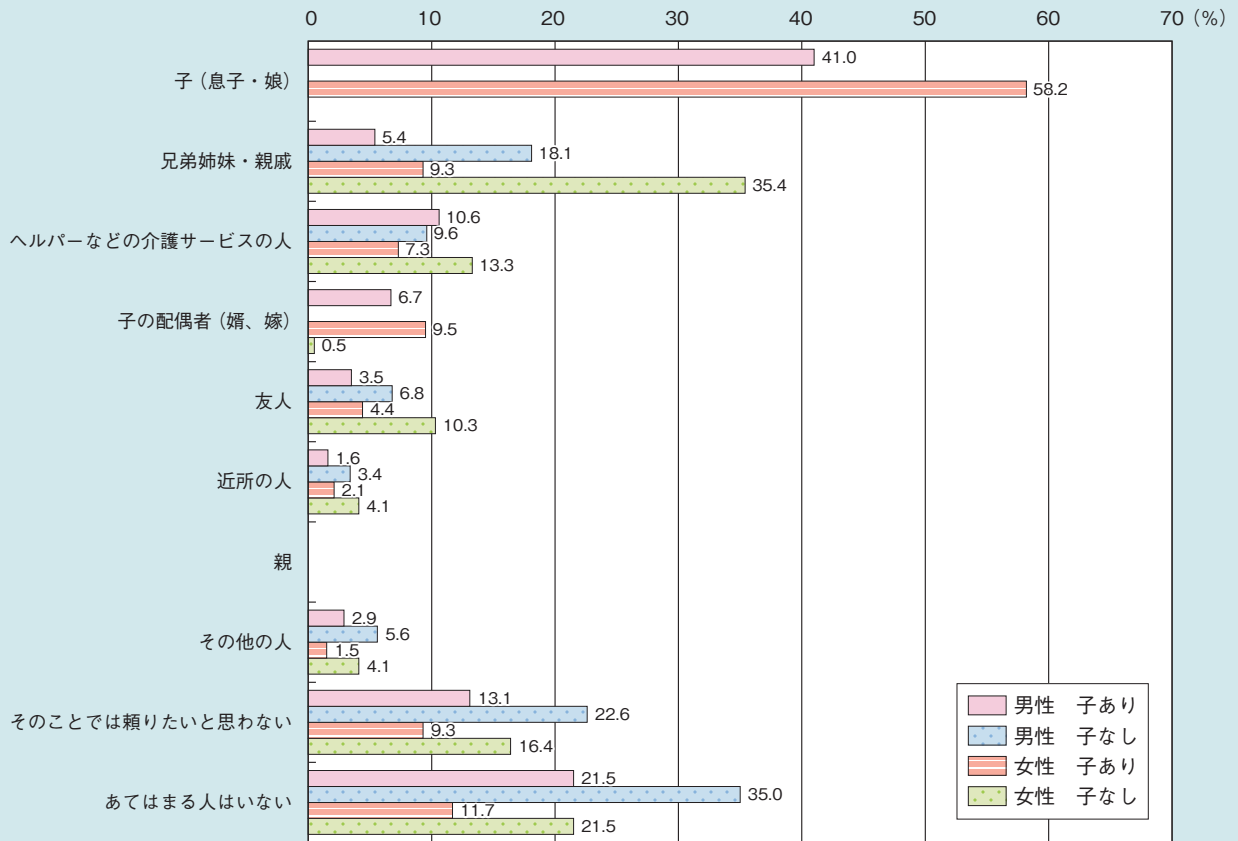
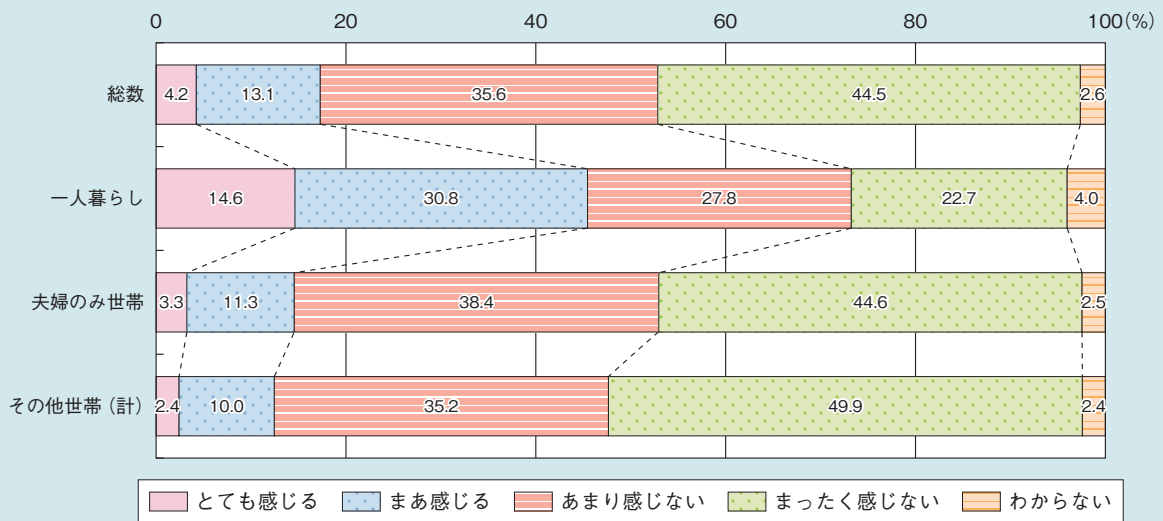


図1-2-6-16 頼りたいと思う相手（看病や世話）（複数回答）



資料：内閣府「一人暮らし高齢者に関する意識調査」（平成26年）  
 （注）調査対象は全国65歳以上の一人暮らし男女

図1-2-6-17 孤独死\*を身近な問題と感じるものの割合



資料：内閣府「高齢者の健康に関する意識調査」（平成24年）  
 （注1）調査対象は全国55歳以上の男女であるが、そのうち60歳以上の再集計  
 （注2）「その他世帯（計）」は、二世帯世帯、三世帯世帯及びその他の世帯の合計をいう。  
 \*本調査における「孤独死」の定義は「誰にも看取られることなく、亡くなったあとに発見される死」

だが、一人暮らしでは45.4%と4割を超えている（図1-2-6-17）。

### オ 孤独死と考えられる事例が多数発生している

死因不明の急性死や事故で亡くなった人の検案、解剖を行っている東京都監察医務院が公表しているデータによると、東京23区内における一人暮らしで65歳以上の人の自宅での死亡者数は、平成27（2015）年に3,127人となっている（図1-2-6-18）。

また、独立行政法人都市再生機構が運営管理する賃貸住宅約74万戸において、単身の居住者で死亡から相当期間経過後（1週間を超えて）に発見された件数（自殺や他殺などを除く）は、平成27（2015）年度に179件、65歳以上に限ると136件となっている（図1-2-6-19）。

### (6) 高齢者の自殺

平成28（2016）年における60歳以上の自殺者数は8,871人で、前年から減少している。年齢階層別にみると、60～69歳（3,626人）、70～79歳（2,983人）、80歳以上（2,262人）と全ての年齢階層で前年に比べ減少している（図1-2-6-20）。

### (7) 東日本大震災における高齢者の被害状況

平成23（2011）年3月11日に発生した東日本大震災における高齢者の被害状況をみると、被害が大きかった岩手県、宮城県、福島県の3県で収容された死亡者は29（2017）年2月28日までに15,824人にのぼり、検視等を終えて年齢が判明している15,755人のうち60歳以上の高齢者は10,409人と66.1%を占めている（図1-2-6-21）

図1-2-6-18 東京23区内における一人暮らしで65歳以上の人の自宅での死亡者数

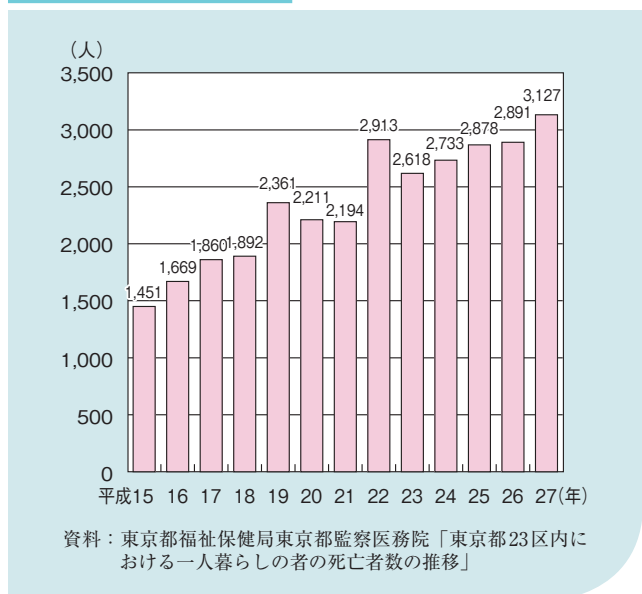


図1-2-6-19 単身居住者で死亡から相当期間経過後に発見された件数

